

小学校

s 4-5

4 学年

# およその数

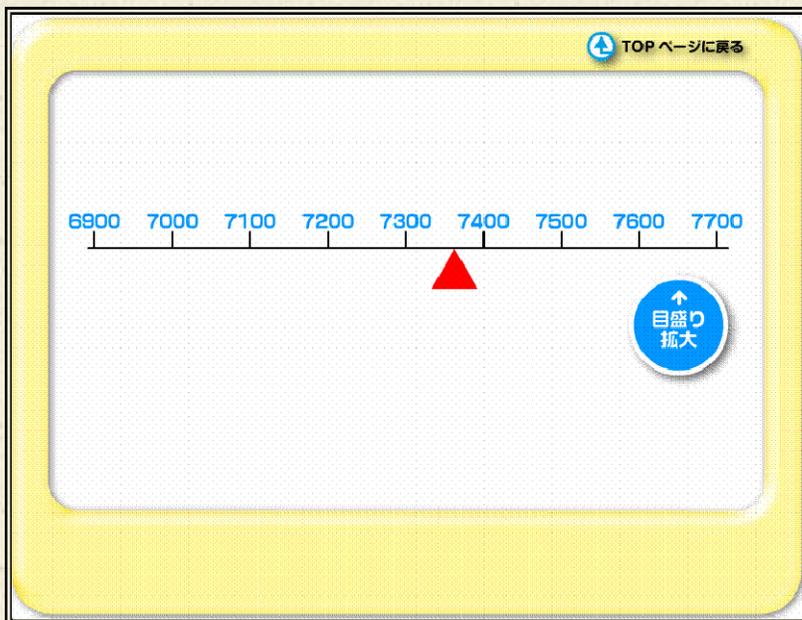
【ねらい】

概数・四捨五入について理解する。

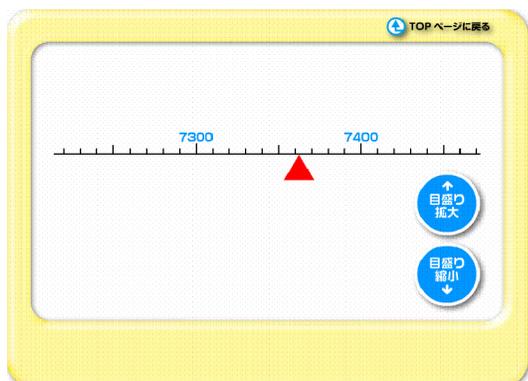
【特徴】

- ◇ 数直線の目盛りが 1/10, 1/100 になったり、10 倍、100 倍に戻したりできます。
- ◇ 概数というものを、目盛りが粗くなることでおよその数に表すものととらえます。

【関連する単元】



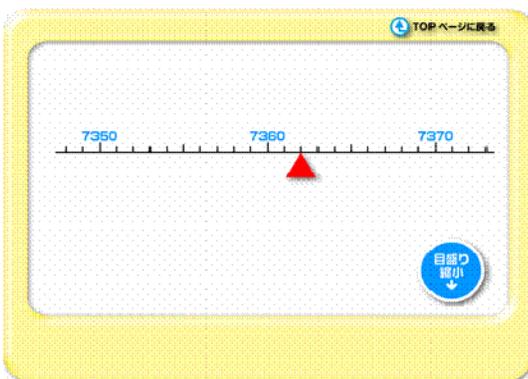
【活用場面】 導入段階の課題課題、算数的活動の後の検証、知識・技能の定着



**概数は、数直線でいえば目盛りの粗さによるよみ取りの精度の違いであることを理解させるのに効果的です**

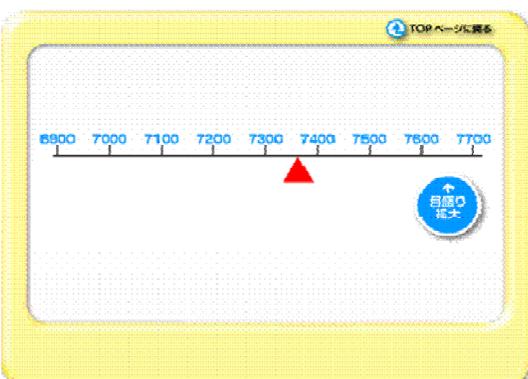
数直線の目盛りではよみ取れない数を、目盛りを拡大(細かく)することにより、よみ取れるようになることを理解させます。

- ◇ 最小目盛りが 100 ではよみ取れないことをおさえます。
- ◇ 最小目盛りを 10 にしても、まだよみ取れないことをおさえます。
- ◇ 目盛りを細かくすることで、数のよみ取りがしだいに精密になっていることを理解させます。



逆に目盛りを粗くすることで、およその数になる様子を理解させます。

- ◇ 最小目盛りを 1 にする。
- ◇ 正確な数がよみ取れたことを理解させる。
- ◇ そこから逆に目盛りを粗くしていく。
- ◇ 「だいたい」「およそ」の言葉をつけなければ表現できないこと、正確な数値ではないことを理解させます。



**どの目盛りに近いかで概数が決まることから、四捨五入の範囲を考えさせることができます**

概数としてとらえさせる際、どの目盛りに近いかを考えさせ、概数にする際に注目する位と四捨五入の範囲を意識させることができます。

- ◇ 目盛りが粗くなるに従って、「だいたい〇〇のめもりに近い」等の表現でよみ取らせるようにします。
- ◇ どの目盛りに近いか判断する根拠は、どの位の数で、その大きさはどうかに着目させ、四捨五入の学習につなげます。